

[翻 訳]

『スペクテイター』(10)

—第86号から第95号—

門 田 俊 夫

第86号 1711年6月9日(金曜日)

【アディソン】

表情には罪の意識が出るものだ。(オヴィディウス)¹⁾

人々にはわざわざ学ばなくてもある程度通じている学問がいくつかあるものです。喋ったり論じたりしている人は誰でも、書物で体系だてて述べられている文法や論理学の規則に全く不案内であっても、文法学者であり論理学者となります。同様に、人は誰でも、一般に人相学²⁾として知られている学問にある程度通じており、見知らぬ人の顔の特徴や人相からその人の性格や運勢を推し量ります。初めて人と出会うと、すぐにその人が尊大な人だとか控え目な人だとか愛想の良い人だとか善良な人だといった印象を抱きます。要するに、第一印象で、つまり相手が一言も発しないうちに、あるいは相手がどんな人か全く知らなくても、その人に対して自然に慈悲心ないし嫌悪の情、

1) オヴィディウス『変身物語』2.447.

2) 16, 17世紀には、人相学について数多くの著作が出版された。その中には、アリストテレスの論文からジョン・イーヴリン(1620-1706)の『貨幣の研究』(1697)所収の「人相学に関する余談」等があった。ワットの『ブリタニカ目録』には30を超える著作が載っている。一般に、手相占い、占星術、運勢判断に関心があった。『スペクテイター』でも「醜悪クラブ」とか「顔が短い」といったことがしばしば登場している。

畏怖ないし侮りといった感情が湧いてくるものなのです。

熱情というものは顔の表情にある特色を与え、何らかの形で露呈するものです。私は半時間たっぷり悪態をついている目やならず者呼ばわりをしている眉毛を見掛けたことがあります。恋をしている人たちが一言も発せず、ぼやき、憤り、悩み、絶望し、死の苦しみを味わうということとはごく普通にあることです。私は顔つきからその人の気質や境遇を推し量るのが得意ですので、時々、通り掛かる人たちの性格を推量しながらチャリング・クロスから王立取引所まで歩いて行きます。気難しそうに顔にしわを寄せている人を見掛けると、奥さんへの同情を禁じ得ません。率直で純真な表情に出会えると、友人や家族や縁者は幸せだろうなと考えてしまいます。

一座の中で黙ったままの見知らぬ人に向かって「私に君を知ることができるようには語れ」³⁾といった有名な格言を残した人が誰であったか思い出せませんが、私に言わせると、ことばよりも表情による方がその人のことがよく分かると思います。つまり、表情よりことばの方が簡単にごまかしがきくのです。しかしながら、この場合、顔全体の雰囲気の方が顔の輪郭よりもはるかに意味を持って来ると思います。実は、雰囲気は普通心の中にあることが目に見える形で現れた結果にほかならないのです。

人相を見ることを学問にまで高め、顔立ちで気質を判断するルールを作った人たちは、雰囲気よりも顔の造作に注目します。マルティアリスはこれに関して面白い警句を作っています。

君の顎鬚と頭髮は色が異なり、
足の長さは違い、目は歪んでいる。
これはどう見てもならず者のしるしだ、
君が誠実だとすれば、君はとてつもない詐欺師だ。⁴⁾

3) アプレイウスによると、これはソクラテスの言葉。アプレイウスは2世紀のローマの哲学者・諷刺作家。

4) マルティアリス『警句』12.54.イーヴリンも「人相学に関する余談」でこの箇所を引用している。

私はこのことについてある著者がとても面白いことを書いている文章を読んだことがあります。この著者は人間の顔の形が少なからず牛とか羊とかライオンとか豚といった動物の顔の形に似ているとみなしたうえで思索を巡らしているのです。要するに、人は顔立ちの似ている動物と似通った考え方をするものであり、気持もその動物に支配的な熱情に取りつかれやすいという訳です。彼はそこで、形の違ういくつかの顔を示し、少し類似性を誇張することで、人の顔の形を数種類の動物の顔の形に分類します。私の記憶では、名高いコンデ王⁵⁾の生涯の中で、作者が王の顔はワシの顔に似ており、王はそう言われるのをとても満足したと述べています。この場合、私が今しがた触れた人相見ということを王が暗黙のうちに心に留めていたのはほぼ確実なことでしょう。廷臣たちからワシのような顔をなさっておられると言われたとき、王は廷臣たちが自分には強く行動的で鋭く王者に相応しい表情が漂っているのだと言っているのだと受け止めたのです。顔立ちが柔らかくきゃしゃな場合は、どんな気質のどんな動物の影響があるのか、また、心持ちが同じ場合にはすみかも同じなのかどうかの判断は、好事家にお任せしたいと思います。話は変わりますが、私は、造物主によって顔には不利な痕跡や特徴が与えられているにもかかわらず、それとは逆の誠実で公正で善良な人になることほど素晴らしいことはほかにはないと考えています。これはしばしば、自らの容姿に苛立たず、また、他人の容姿を妬まず、もっぱら精神の啓発に務め、永続的で装飾的な美の獲得に向かって専念している人たちに伺えることなのです。私は醜くても立派な人たちを沢山知っていますし、とてもひどい顔立ちであっても、尊大な美人に見られる咲き誇るような器量の持ち主よりも愛すべき快活さを備えている人も知っています。悪徳を受け入れる用意をしていると思える身体に美德が宿る場合には、その美德に対する賛美は倍加されます。こういった場合は、おおむね、精神と身体は仲間ではないよう

5) 「コンデ王、ルイ2世伝」によると、彼の眼差しは鋭く、射抜くようであり、彼の人相は鷹に似ていたということである。コンデ王(1621-86)はブルボン王家の人物。

です。

この種の非凡な実例としては、ソクラテスがいます。⁶⁾ たまたま当時アテネに、外観から気質や性癖を見ぬく名高い人相見がいました。ソクラテスの弟子たちは、この人相見を試してやろうと考えて、この男を師のところへ連れて行きました。人相見はソクラテスには会ったことがなく、そこにソクラテスがいるとは知りませんでした。人相見はソクラテスの顔をさっと見ただけで、こんなに淫らで好色で酒飲みのお年寄りは見掛けたことがない、と断言しました。これを聞いて、弟子たちは全員、この男の人相見のいかさまといい加減さの正体を見つけたと思って、どっと笑い出しました。だが、ソクラテスは弟子たちに、この人相見は現時点の自分については間違ったが、根本には間違いはないのかも知れない、なぜなら、生来自分には人相見が見抜いた悪徳に陥るところがあったが、哲学の指図によって持って生まれたそういったひどい性癖を克服したのだから、と語りました。

ある古典作家によると、実際、ソクラテスの顔はシーレーノスにとっても似ていたということです。⁷⁾ そのことは、好事家の飾り棚でよく見掛ける古代の封印や宝石に彫られている顔もそうですが、現存している両者の彫像や胸像を見れば分かります。ところで、この種のことではいろいろな考えがありますが、賢明な人であるなら、人の外観を信じないように特に気を配るべきです。知らない人の容貌に偏見を持って、互いにうしろめたく思ってもそれは取り返しがつきません。私たちはつつい容貌だけから判断して、立派な人物に憎しみを抱いたり、尊大で悪い人だと考えてしまいがちです。そして、いったんそんな印象を持ってしまいますと、その人物の真の人柄が分かっても、あまり高く評価できなくなってしまうのです。モア博士は、彼の賞賛に

6) ソクラテスが人相見ゾフィルスと出会った時のことについては、キケロの *De fato* に言及されている。

7) プラトン『饗宴』215A。この点およびキケロが言及している点は、スタンレイの『哲学史』第15章ソクラテスにも見出される。『哲学史』1701年版はアディソンの蔵書の1冊となっていた。シーレーノスは酒神ディオニソスの養父で予言能力を備えた、快活で人を酩酊させるほてい腹の老人。

値する倫理学体系の中で、容貌で偏見を抱くこの傾向を道徳での小さな悪徳のひとつであるとの考えを述べています。⁸⁾私の記憶では、確か彼はそれに「Prosopolepsia」(偏愛)という名前をつけているのです。

第87号 1711年6月9日(土曜日)

【スティール】

顔が魅惑的だからといってあまり信頼してはいけない。

(ウェルギリウス)¹⁾

私の思索の目的のひとつは、容姿に関しまして、人々にその美醜に関係のない振舞いをしていただくことです。以前に「醜悪クラブ」の秘密を公表しましたが、当時は自分たちに選択の余地の無いことは一切気にしない堂々とした人たちがいたのだということがお分かりのことと思います。²⁾「偶像」に関する話³⁾は、結果的に本人の長所や天賦の才能への不当な扱いを減少させることになりました。偶像に属する人たち、つまり、男女を問わず美しい人々に関しましては、彼らは一般に非常に御しにくい人物といえます。彼らの振舞いのひとつひとつに当惑を覚えますので、気を落ち着かせるためには、いっそのことそんな人たちが全滅してくれればいいのにと願うほどなのです。概して彼らは自分たちのことは大目にみてもらおうとし、他人のことはほとんど斟酌しませんので、こういった人たちに対処しなくてはならない人たちは、容姿が平均以上の男性や美しい女性が造物主から気前よく振舞われなければよかったのと思います。普通、容姿端麗な人物は紳士然としており、申し分のない女性はどこか鼻持ちならないところがありますので、どちらも

8) ヘンリ・モア (1614-87) 『倫理学便覧』第1巻第13章。モアはケンブリッジ・プラトン学派の代表者の一人。

1) ウェルギリウス『エクロガエ (詩選)』2.17.

2) 第17号参照。

3) 第73号参照。

耐えられません。それゆえ、私は大体、気分次第でなおざりにしたりしなかったりする優雅な紳士や自分以外の人には思いやりのないことを行なったり口にしたりの器量を備えた美人よりもむしろ、器量のよくない愉快な人たちを交際相手としてきたのです。

容姿が原因で気おくれしたり、厚かましくなったりするのは、同じように誤りです。双方とも自分自身のことを、そして自分の何が尊重され、何が軽視されるかを知らない、あるいは知ろうとしないことから生じるのです。実は、私は、こういった取るに足らない考察が、寄稿者からのつぎの手紙から伺えますようなひどい結果をもたらすとは想像しませんでした。この手紙を読みますと、魅力的な女性から好意を寄せられない人たちにとっては、美人は競売にかけられているようです。

6月4日

観察者殿

どこから見ましても私は町で一番の目鼻だちの整った娘の部類に入りますが、私の顔の形について述べておかなくてはなりません。不幸にも私の顔はまさに卵の形をしているのです。これは生まれつき喋ったり聞いたりするのが好きな私の気質に由来するのだと思います。

こんなことを申しますと、あなたは観察者殿とヘカティッサが大歓迎で入会を認められたクラブ⁴⁾の会員候補者としてよくも私が名乗り出ることができなと思われるかも知れません。私は醜さという点で欠陥があると思われたくないのです。この点では私が値しないということはよくよく分かっていますので、自分がクラブの引き立て役になればと願っているにすぎないのです。

私は常に正直に欠陥があることを認めて来ました。これは私が女性であることの結果であり、あなたが関心を持っていらっしゃることでもあるのだと

4) 第48号参照。

思っています。

類まれなヘカティッサには異論の出る余地はないものと思います。なぜなら、彼女が嫉妬するようなことは私には少しもないのは確かなことです。私には末席の補助椅子を与えて下さればそれで満足です。どうかよろしくお願いします。

ロザリンド

追伸

共通の敵に対する公開の抽選会ではネックレスを犠牲にしました。先週土曜日の午後3時には、中立を表明するために、顔の両側にほくろを付けることにしました。⁵⁾

1711年6月7日ロンドンにて

拝啓

先だっの偶像に関する論文を拝見しまして、ロンドンの6ないし7箇所に偶像姉妹が経営するコーヒーハウスが存在しているとの苦情を訴えざるを得なくなりました。この偶像たちはしかじかの地区の若者から崇敬されようとして、一日中コーヒーハウスに陣取っています。ある美人は取引所の近くで若い商人を長時間に渡って引き留め、またある美人は本来机に向かっていてはならない学生諸君を彼女の家留めるために、商品は思うように税関に入ってこなくて、法学院では判例集が熟読されることがないのです。偶像崇拜者たちが偶像に交互に愛想を振り撒いているさま、そして、恋をする人以外の人たちが裁きの場所と呼んでいる玉座からの優しい眼差しを受けとるために順番待ちをしている人たちが抱いている妬みの感情を検分してみる価値があります。偶像がライバルの紅茶に砂糖を入れ、「さあ、この方にお気に入り席をご用意下さい」とボーイに向かってぞんざいな口を利いているのを見て、顔面が蒼白になっている紳士を見掛けたことがあります。非常

5) 第81号参照。

に有望な青年がポケットに重石を入れて橋の下にたたずんでいたのも確かなことです。彼は偶像が使った紅茶カップをすぐに洗って使わせてくれなかったので溺死する積りだったのです。

私はもう色恋をうんぬんする歳ではありません。従って、嫉妬心からこんなことを言っているのではありません。ひとえに、被害をうけているからなのです。こういった恋する者たちはなんでも紅茶とコーヒーにしていまいます。昨日ある若者が言い寄るために暴飲し、ライバルたちもまた大声で酒を要求しているのを見掛けました。これは色恋には無関係のその場に居合わせた人たちにとっては大変な迷惑だったのです。若者たちがこんな風に熱情のあまり食欲をなくし、偶像のために乾杯している間は、仕事や政治の話をしにやって来ている私たちはすっかりお手上げなのです。彼らは尋常でないのぼせ方をしている連中がいて、それにかこつけてまた一杯やります。体質の虚弱な連中が紅茶の力を借りて偶像に色目を使い、温かいお酒を飲んで取り乱すといったことはよくあることです。こうして、偶像を獲得しようとする連中は、またたく間に熱病や糖尿病が進行するのです。偶像の儲けや恋をする者たちの気晴らしに、私が悪意を持っているのではないことを繰り返して言うておかなくてはなりません。私がこの抗議書を書いていますのは、ひとえに私たちのような地味な連中が偶像崇拜者と同じように扱われていないためなのです。貴紙でこれが公表されましたら、偶像のみなさんが崇拜者に猫いらずを混入して、彼らのことが気に入らない私たちのことをもっと大事にしていただけると期待しています。

敬具

T.T.⁶⁾

6) T.T. は後に桂冠詩人となったユースデンのこと。

第88号 1711年6月11日(月曜日)

【スティール】

召使がこんなに生意気な態度だと、主人はどう対応するだろう。

(ウェルギリウス)¹⁾

1711年5月30日

観察者殿

小生は非常に有益だが往々にして人々が見過ごしがちな問題を取り上げていらっしゃる貴方のご努力に大きな評価を払っている者です。貴方は多くのテーマで好結果を得ていらっしゃると思います。そして貴方は人生のさまざまな場面に精通しておられると思えます。でも観察者として人間を考察する場合には、貴頭の士の観察も大切ですが、下位の者たちの情況も無視すべきではないと思います。貴方が触れていらっしゃらないことで特に気になることがひとつあります。それは総体的にグレートブリテンの召使のマナーが悪いということです。小生はこれまで各国を旅して見聞を広めてまいりましたが、この7年間はロンドンに居を構え、生活圏としてはロンドンから20マイル以上離れたことはありません。この間に、上流階級の数多くの方と面識を得ましたが、召使に満足していらっしゃる方はひとりとしていないのです。これは外国人や外国の地を訪れたことのある人々にとっては大きな驚きです。イングランドほど召使に恩典があり優遇されている国は世界中探してもどこにもないと言わざるを得ません。これだけ豊富な食事や多額の給金や勝手気ままな振舞いができる場所はどこにもないのです。これだけ働きが悪く、主人に敬意を払わず、浪費し、怠慢で、おまけに頻繁に主人を取り替えるところはどこにもありません。街道や自宅で頻繁に強盗にあったり物が無くなるのはこのせいなのです。実は、小生が今こんなことを考えているのは、小生の雇っていた不謹慎な馬番に、まだたったの10マイルしか使用して

1) ウェルギリウス『エクロガエ(詩選)』3.16.

いない一番大切にしていた鞍敷を略奪されたことがあるからなのです。召使の怠慢から虐待された馬の数を記録するとなると、小生の知っているだけでも、一個連隊が出来るのは確実です。私たちにこういったならず者たちの扱い方が分かるように、また、私たち主人に彼らを改心させる手段が取れるように、貴方の所見をお聞かせ戴ければと願っています。どうか召使に関する思索をお願いします。

敬具

ブリテンを愛する者より

追伸

特に馬番のことは無視なさないで下さい。

この誠実な紳士は私に馬番について諷刺して欲しいと願っていますが、彼が憤慨するのはもっともです。こういった召使の無作法は人々に多大の悪影響を与えるものです。

手紙ではもっぱら男性の召使に対する苦情が述べられていますが、現在彼らの間に蔓延している放縦は、これまでに多くの人々が指摘してきたこと、つまり、食事と宿泊を提供するという習わしが原因となっているのです。こういった間違った手当の出し方だけを見ても全国の召使を墮落させるに十分です。このことが彼らをいわば上流階級の一員になったかのような気持にさせてしまいます。彼らはクラブまで同行します。そのほか居酒屋で待っている場合には、主人にならって食事をし、自分の給金は使わないですみます。このことから自分たちは主人と同じ身分ではないのかといった錯覚にとらわれ、主人のマナーの真似をすることになるのです。そして、供回りを従えている人々と変わらないほどの申し分のない装いをし、洒落込むことになります。主人が宴会に出席しているときは、つまり、主人がいないときは、ふざけて主人の名前や肩書を語るということが貴顕の士の従者にはよくあります。そうすることで彼らは身分や気品といったことに遠慮気兼ねがなくなります。召使が主人の知り合いでなければ、よく知っていてもその紳士のことを無視

するといった尊大な振舞いをするのは、まさに遠慮気兼ねがなくなっているためなのです。

私は寡黙で目立たなくしていますので、その気になれば、非常に豪華な宴会会場はいうまでもなく、見劣りのする普通の食堂でも、陰口をたたかれることなく気楽に食事を摂ることができます。先日、貴族院近くの食堂に入ったとき、お手伝いが階上から降りて来ておかみさんに、甘口ビールを持ってこなければ窓から放り出すと主教閣下から毒づかれたのだと、また、公爵閣下はパール酒²⁾をマグ2杯飲んだのだと告げ口しているのを耳にしました。私がおっと驚いたことには、とても著名な貴族の名前を挙げながら、公務について大声で無作法に受け答えしていたのです。そのとき突然、誰かが走って来て議会在散会になるぞと叫びました。大勢の人たちがやって来て、居酒屋はまたたく間に喧騒に包まれました。マグ1杯はどこそこの侯爵、オリブ油とヴィネガーは某伯爵、ビール3クウォートは受爵記念の閣下の勘定にしておいてくれなどなど大変な賑わいとなりました。裁判所や議会に向かう階段付近に群がる召使と彼らの尊大な振舞いは悪名高いものです。ここでは、あらゆる階級の人たちが召使たちのあざけりの対象とされます。彼らは勝手気ままに騒ぎ立てますので、国民全員がふざけており、我が国には規則や気品の高さといったものがないと思えるほどです。

つぎに召使たちの溜まり場となって勝手気ままにやっている場所は、主人が環状道路にいるときのハイドパークの入口周辺です。³⁾従僕たちをここまで伴うのです。そして、食卓や屋敷での主人の言動があることないこと噂されるわけです。どんな身分でも才人はいるものです。私は気晴らしをしているこの連中と一緒になったとき、まるで非常に洗練された人たちに囲まれているように、女たらしと淑女ぶる女がからかわれ、尊大と傲慢があばかれて

2) パール酒とは、エールやビールにニガヨモギとかその他の苦みのある植物を入れて調味したアルコール飲料。後には、ホット・ビールをジン、時には生姜と砂糖で割ったものとなり、朝方の飲み物として人気があった。

3) 第15号参照。

いるのを耳にしたことがあります。それは（教育を受けていないことを割り引いて考えてみると）非常に面白おかしくまた良識をもって語られるのでした。全般的に見て、召使のマナーはある程度主人のマナーに似るものです。ホワイト・チョコレートハウス⁴⁾や棧敷席⁵⁾と同じように、従僕たちの間にも恋する連中や密通を企てている者がいるのです。数年前にもこの種の従僕を見掛けたことがあります。近衛師団のある大佐の従僕は、しばしば、主人に隠れて、主人の衣服を身につけて色恋に走り逢引きをしていたのです。この従僕は容姿がよく、正真正銘の紳士だと思っている女性が沢山いました。おまけに、彼は大佐と変わらないほどの学識の持ち主でした。例えば、彼は恋文も巧みに書けましたし、会話の話題にもこと欠きませんし、たいていのことは自分一人で立派にやり遂げるのでした。たまたまある日、この従僕が近衛兵の身なりで、仮面を付けた立派な身りの女性と一緒に、居酒屋の階段を降りて来たとき、他の人たちと階段を上がって来る大佐と出くわしました。だが、彼は自身たっぷりにその婦人のもとを離れ主人に近づいて来て「閣下、閣下はご自分のことをとても大切になさっておられますので、この栄えある衣服をまもっています私を鞭打つなんてことはなさらないと思います。問題の女性はいそこにいます。その点に関しまして閣下のお怒りはまた別の機会までお控え戴けるものと期待します」と言いました。大佐はしばらく考えて、顔を晴れ晴れとさせ、少し離れて立つ従僕に向かって「おい、あの婦人を連れて来てお前に代わって謝らせるのだ」とささやき、つぎに声を高めて「ウィル、そのように取り計らうのだ。さもないと許しはしないぞ」と言いました。この従僕は愛人のところに行きました。そして、彼女に大きな声でとても立派な方なのだと言い聞かせて、四輪馬車まで連れて行ったのでした。

ところで、劇場は言うまでもありませんが、上記の場所において、一般に

4) ニコルスによると、「ホワイト・チョコレートハウスは当時は現在の場所と違って、セント・ジェームズ通りを下ったところにあった」ということである。最初の経営者、フランシス・ホワイトは1711年2月に亡くなった。

5) 第81号参照。

主人が引き金となって召使が犯すその他多くのふしだらな行為は、実に多様ですのでまた別の機会に譲る必要があります。

第89号 1711年6月12日（火曜日）

【アディソン】

ベルシウス：老若を問わず、貴方からことの善悪を知る。

コルヌトゥス：やるべきことを先延ばしにする人は不幸せだ。

追求が明日に延ばされるだけで、明日もまた

今日と同じく怠惰な一日となってしまうだろう。

ベルシウス：一日楽をすることはそれだけ借りになるのか。

コルヌトゥス：その通り。明日はまた昨日と同じことなのだから。

昨日は過ぎ去り、何一つ得るものはなかったのだ。

このようにして、むなしい日々が過ぎていくのだ。

明日を頼みにしては、いつまでたっても

やるべきことは出来はしない。ちょうど呪われた

最後尾の戦車のように、近づけど、決して先頭を

行く戦車には追いつけはしないのだ。

(ベルシウス)¹⁾

我が寄稿者から愛についての手紙が殺到していますので、出来れば、内容によっていくつかに分類し、それぞれ機会を改めて私の考えを述べたいと思います。本日の紙面でまず取り上げますのは、恋人の意向に応じることも退けることも出来ずに求婚の時間をむやみに引き延ばす時間稼ぎをする女性を相手にしなくてはならない男性諸君のことです。この種の女性に対する不満の手紙が数限りなく私の元に寄せられています。その中の一通に、ほかでもない法廷弁護士からのものがあります。彼が言うには、テンプル法学院にやっ

1) ベルシウス『諷刺』5.64-71.

てきて一年もたたないうちに求婚して、弁護士となった後でもずっと追い求めてきて、れっきとした法廷弁護士となった今も、早く事の決着をつけたいと願っているにもかかわらず、女性はまだもって「結論を留保」しているとのことです。この紳士の言い回しがとても気に入りましたので、私はこの種の女性を「結論を留保する者」と呼んで他の女性とは区別したいと考えます。また、サーシスと名乗る人からの手紙を見ると、この人の相手は結論を留保してゆうに七年になるとのことです。だが、こういった「原告」のうちで、私が最も同情するのは、不幸なフィランダー（恋に恋する人）なのです。志操堅固で資産家でもある彼が言うには、臆病で優柔不断なシルヴィアは子供を産んでもまだ結論を留保しているとのこと。彼の手紙によると、ストレフォンは大変な癪癪持ちの恋人で、自分の利益を考えて結論を保留している女性に魅せられて身動きが取れなくなっているとのこと。2) 若い頃から彼女にいれあげ、いつのまにか55歳になり、彼女に誰か別にいい人ができない限り、今後もこのままずるずる引きずられることは間違いない、と彼は大変な熱情を込めて語っているのです。この話の結びとして、誠実なサム・ホープウェルの手紙を引用したいと思います。サムは大層愛すべき人物で、彼はどうも最終的には「結論を留保する女性」と結婚したようです。前置きとして一言述べておきますが、酒をこよなく愛するサムのその女性に寄せる熱情は、1681年以降終始友人たちの気晴らしの種となってきたのです。

拝啓

実を申しますと、小生はマーサ夫人に大変な想いを寄せ、彼女にさんざん苦しめられてきました。22歳のときに魅入られ、それ以来、はぐらかされ続けて、30年以上経過しました。頭の毛が白くなるまで彼女を愛し続け、悪戦苦闘の末、現在は彼女の主人におさまっています。いろいろありましたが彼女は、小生にとりまして、とても魅力的な老婦人なのです。私たちがもっと

2) ストレフォンは、シドニーの『アーケイディア』(1590)に登場する恋人を失って嘆く羊飼。そこから恋に悩む男の代名詞として用いられる。

早く結婚しなかったことを嘆くこともしばしばですが、その責めはほかならぬ彼女自身にあるのです。彼女は意中の人がいる間は小生のことは意にも介さなかったのです。結婚指輪の銘の代わりに、小生は恋の日付を刻んでいます。この機会に、貴殿からお祝いの手紙を、よろしければ祝婚歌でもいただけると幸いです。

敬具

マーサ夫人に愛を捧げるサム・ホープウェル

個々人を大いに不安にさせるだけでなく、社会に対しても悪影響を与える悪弊を世の中から一掃するために、「ためらい」という愚行について二、三意見を述べたいと思います。公正な読者のみなさんもこの件につきまして真剣に考えて戴きたいと考えます。

まず第一に、時は限りあるものだということを真剣に考えて戴きたいと思います。男たらしが手持ちの男性すべてとふざけていられるほど人生は長くはありません。臆病な女性はじっくり考えている間に墓場に入ってしまいます。人間の寿命がノアの洪水が起こる前のように長ければ、ためらいに五十年かけ、さらに二、三十年は結論を留保していてもよいでしょう。寿命が九百歳であれば相応しい人物だと思うまでユダヤ人への心変わりを隠しておくことが出来るでしょう。でも残念なことに、自分はまたたく間に表舞台から姿を消し、他の人にその役を明け渡すことになるのだと考えると、急いで自分の役柄を演じなくてはならないのです。

第二に、女性の読者のみなさんは、人生が短いと同様に、美しい期間もまた短いのだということを考慮して戴きたいものと思います。どんなに奇麗な肌でも何年か経過すると皺がよります。精彩が無くなるのはあつという間ですのうっとりしている暇はありません。このテーマについては、バラと虹、およびその他いくつかの巧みな奇想でもって粉飾を施すこともできますが、これはまた別の機会に譲ることにします。

同様に、結論を留保する人に忠告したい第三の事柄があります。それはい

つまでも疑ってためらっていると、往々にして60歳にもなって恋に陥る危険性があるということなのです。いわゆる「晩春」といったものです。これは時として老婦人に取りつき、その老婦人をとても奇異な動物に変えてしまいます。そこで私は、結論を留保する女性がたとえまたあらゆる苦難を克服し、常軌を逸したその年齢でやっと結論に達するとしても、自分の姿は見られるものではないのだということを念頭に置いていて欲しいと思います。

とはいえ、私は女性本来の慎ましさに水を差しているわけではありません。慎ましい女性は、上流の奥ゆかしい人からであっても、はじめて言い寄られたときには身を引くものなのです。つまり、私の言っていることは、女性は思慮分別によって鼓舞される場合にも、作法として結論を留保し、品位を保って貰いたいということなのです。主教の職を薦められた場合に立派な男性が取る態度と同じように、貞淑な女性は結婚の申し出があったからといってすぐに飛び付くべきではないのです。ただし、私は、心の中でよしとしていることをいつまでも拒否しなさいと言っているわけではありません。この点に関しては、ミルトンが語っているイヴの例を引きたいと思います。ここで必要なのは最後の12行だけなのですが、完全な形で書き写したいと思います。

その方は肋骨を両手で持ち、それで何かを造ろうとされていました。そしてやがて一つの生き者がその巧みな創造の手の下で出来上がっていきました。それは人間のようでしたが、性が異なっており、うっとりするほど美しく、これに比べるとそれまで美しいと思っていた世界中のすべてのものも遥かに見劣りがしました。いや、彼女の中に、彼女の顔の中に、すべての美しさが集まり包まれているように思われました。女の顔は、この時以来、私の胸に未だかつて感じたこともないような快さを注ぎこみ、また彼女の息吹は、すべてのものに愛情と恋慕の情とを吹き込みました。すると、突然その姿が消え、私は暗闇の中にとり残されました。はっと眼を覚まし、彼女を探し

求めましたが見当たらず、このままでは永久に失意落胆のうちに他の一切の楽しみも諦めるほかはないと思いました。そんな風に殆ど絶望しかけていた時、夢の中で見たとおりの彼女がすぐ近くにいるではありませんか！ その姿はこの地の、いや天の与えうるあらゆる美しきで飾られ、実に愛しいものに見えました。彼女は創造主に導かれて、—といってもその御姿は見えず、ただ御声に導かれて、近づいてきました。婚姻の神聖さと夫婦の儀式についても充分教えられていました。その歩みの一步一步に優美さが、その眼には天国の輝きが、そして、その身のこなし方の一つ一つに威厳と愛情が、みち溢れていました。その姿を見て、私は喜びの余り、大声をあげて叫ばざるをえませんでした。

今までの償いをし、御言葉を守り給うたことか！

まさしく、この者こそ、あなたの凡ての賜物の中でも最も美しき者、しかも、あなたは私にそれを快く与えて下さいました！ 今、私の眼の前にいるのは、まさにわが骨の骨、わが肉の肉、いいえ、私自身なのです！

.....

彼女は私のこのような言葉を聞いていました。神の御手によって導かれてきた彼女でしたが、無邪気さや乙女らしい羞恥や、美徳や自分の価値の自覚が、つまり、口説かれたい、求められずに靡きたくない、それでいて大胆で出しゃばりでもなく、いや、むしろ控え目で、だからいっそう望ましく見える—要するに、まだ少しも罪の思いに穢されていない自然の情そのものが、その心のうちに動いたらしく、彼女は私の姿を見るや否や、急に背を向けて逃げようとしてしました。私はあとを追いました。彼女は婚姻の尊さを知っていました、そして、私の切なる願いを厳粛にしかも素直に聞き入れてくれました。夫婦の契りを結ぶにふさわしい四阿へと、曙のように顔を

紅らめた彼女を連れて行きました。……………³⁾

第90号 1711年6月13日（水曜日）

【アディソン】

彼はいたずらに燃え上がる、

まるでパチパチと燃える切株のように。（ウェルギリウス）¹⁾

魂に巢食う過度な欲望の火を消すには、プラトン²⁾とその弟子たちの考えほど効果的なものはないと私は考えます。彼らに言わせると、魂が肉体に宿っている間に契約を結んだあらゆる熱情は、肉体と魂が分離した状態になってもそのままとどまるということなのです。つまり、魂が肉体に宿っているかそれとも肉体から遊離しているかの違いは、ちょうど人が室内にいるかそれとも戸外にいるかの違いと同じということなのです。従って、とりわけ淫らな熱情がいったん魂に根づき蔓延してしまうと、肉体が見捨てられ顧みられなくなった後でもそのまま魂に取りついて離れないのです。プラトン学派の人たちは、彼らのこの学説を確認するための論拠として、絶えず肉欲にふける生活をしている淫らな若者は、歳とともに次第に好色な老人となるのだと述べています。そしてまた、その熱情は肉体が全く枯れてしまっても頭から離れず、いな、肉体に目的を達成する力が備わっていないにもかかわらず、欲望はさらに激しさを増し、（他の習癖と同様に）老齢であるだけに手のつけられない状態になるのだと言います。肉体から何も煽動されていない時に、もし魂がこういった熱情に支配されると、魂は肉体からすっかり切り離されてもそのままその熱情を持続けることになるのだと、彼らは言います。魂の本体そのものが熱情のために炎症を起こすのです。壞疽が進行して治癒す

3) ミルトン『失楽園』第8巻469-95, 500-11。（平井正穂訳、筑摩書房1979年）

1) ウェルギリウス『農耕詩』3.99-100.

2) 『パイドン』81. 邪悪な思いのために地上に転落し、土（肉体）中に埋められ、生物となったといういわゆる肉体＝墓標説。

ることはありません。つまり、炎症はいつまでも果てることなく猛威を振るうことになるのです。

それゆえに、この点で、淫らな人物は死後、罰を受けるのだと、プラトン学派の人たちは言います。淫らな人物は、適合するだけの対象も器官も備わらない熱情にせがまれるため、満足させられない欲望に取りつかれ苦しめられることになります。つまり、こういった人物は、どうすることも出来ない欲望に駆られるが、無力な状態で生きるしかなく、いつまでも、手に入る見込みのないものを追い求めながら燃え上がるのです。死者の魂がしばしば墓地に現れ、遺体が埋葬されている一帯をさ迷うのはこのためなのだと、つまり、これは魂が依然としてかつての肉欲的な快楽を渴望し、喜びを満たしてくれるチャンスのある肉体に今一度入り込みたいと願っている姿なのだと、プラトンは言います。

熱情が死後も存続するという点に関して、我が国の優秀な神学者たちの中には、とても見事にかつ理性的に、このプラトン学派の概念を活用している人たちがいます。プラトンは、確かに、考えを巡らせ、埋葬地に現れる亡霊についての考えを展開しています。もっとも、死者の魂がこの地上をあちこちさ迷い、同類を見て喜んでいるだということを心底信じるなら、淫らな精神にとって相応しい地獄は、プラトンが触れている地獄以外には考えられないと、私には思われますが。

古代の人たちはタンタルスにこのような苦悶状態を見て取ったようです。タンタルスは永遠の渇きという罰を与えられ、顎まで水につけられ、飲もうとすると常に水は消えてしまうのでした。³⁾

ウェルギリウスは、人の魂ということに関して、プラトン哲学の全体系を

3) オヴィディウス『変身物語』4.458. タンタルスはユピテルとブルトとの子で小アジアの王。神々の寵児だったが、人間に神々の秘密をもらしたりしたために地獄におとされ、首まで水に浸かり、頭上には果実のなった枝が垂れ下がっているのに、それを口にしようとする、水も果実も遠のいてしまうという、飢えと渇きの罰が与えられた。

美しい寓話の形にしました。そして、『アイネーイス』第6巻において、快樂にふける人が死後見舞われる罰について述べています。それはこれまでここで述べてきたものと似通ったものとなっています。

彼らは金色のベッドに横たわり、
ものものしい宴の準備が整う。
傍らには復讐の女神が控え、
彼らの口に入りかけた肉をひったくる。
彼らが手を触れようとすると、ヘビが
シューと音を立ててたいまつを掻き乱し、
彼らの耳元に非難の言葉を浴びせ掛ける。⁴⁾

厳格になりすぎるきらいのある私の思索の調子を少し緩和するために、(そうでもしませんが、洗練された我が読者を何名か失ってしまいそうですので)、当代きっての学識のある方がある箇所では引用なさっておられるお話を、原文に忠実に翻訳したいと考えます。読者のみなさんは、それが現在のテーマと無関係ではないことに気付かれることでしょう。多分、それは現在検討中のある種のタンタルスの苦悩、つまり、プラトンのいう地獄の苦しみを味わっている人物を生きたままに活写しているものと思われます。ムッシュー・ポンティナンは彼の身の上に降りかかった恋の冒険について以下の通り語るのです：

「昨年、田舎に滞在中、私は魅力的な二人の女性とたびたび交友関係を結びました。彼女たちは女性にとって望ましい機知と美しさ、そして媚態も少なからず備えていました。そのため、私は幾度となく快い苦悶を与えられました。例によって、私は二人に恋をしました。そこで、二人が別々の時を狙って、さかんに二人に特別の好意を寄せて欲しいという私の熱情を訴えました。ある夜、部屋着姿で部屋の中でうろうろしていると、この二人の女性が連れ立ってやってきて、もし私が一役買うなら、この館にいるある紳士

4) ウェルギリウス『アイネーイス』6.603-7.

にとても愉快なはずをしようと思うのですがと声を掛けてきたのです。二人がまことしやかな話をしますので、私は二人のもくろみを大いに面白がり、私に出来ることならどんなことでもすると承諾しました。二人は直ちに部屋着姿の私を長いリンネルでくるみ始めました。そして、布を百ヤードたっぷり使って私の体をぐるぐる巻にしました。両腕は脇に付けたまま、両足もびったり合わせたまま、幾重にも巻き付けられましたので、私はまるでエジプトのミイラのようにになりました。私がこの姿で直立したとき、一人が突然笑い声を発して、「さあ、ポンティナンさん。あなたが私たちに熱心におねだりしていらしたお約束を果たしてあげようと思います。あなたは私たちにさかんに頼み込んでいました。おそらくあなたは育ちの良い伊達男でしょうから、まさか、その望みを抱いている婦人とベッドを共にするのを嫌がることはないでしょうね。」と言うのです。私はひとしきり笑った後で、とりあえず巻き付けた布を解いて、その後であなたたちの好きなようにしたらいいと頼みました。「駄目です。私たちはあなたにはそのままにしておいて貰いたいのです。」と彼女たちは言います。そして、私を彼女たちの館の一室に運ぶように指示し、ぐるぐる巻のままベッドに寝かされました。その部屋はこうこうと明かりが点いていました。私はベッドにとても丁寧に寝かされ、(実際には動きが自由なのは頭だけでしたが)、頭は高い枕の上に載せられました。私をベッドに寝かせつけると直ぐに、二人はととても素敵な夜着を着てベッドに潜り込んできました。裸同然のこの上なく美貌の二人の女性をベッドに迎えながら、身動き一つ出来ない男性の状態は、容易に推察できることです。私は自由にして欲しいと彼女たちに懇願する一方で、巻き付けられた布を振りほどこうと悪戦苦闘しました。私のもがきはあまりにも荒々しいものでしたので、二人は真夜中頃に、操を奪われると大きな声を上げてベッドから跳び出るほどでした。だが、私には振りほどけないと分かると、二人は再びベッドに潜り込み、からかいを再開しました。私は祈りも努力もすべて通じないと分かると、気を落ち着かせることにしました。そして、解いてくれなければ、私は二人の間で眠り込み、永遠にあなたたちに恥辱を与えることになるだろう

うと言った。哀しいかな、それは不可能でした。かりにそれが可能であったとしても、彼女たちは意地悪く愛撫し、愛の言葉を投げ掛けて邪魔をしていたことでしょう。私は女性に身も心も捧げるタイプの人物ですので、女性を自由にできるこんな夜はもう二度と過ごさないことでしょう。我が読者のみなさんはきっと私が翌朝どうなったのかお知りになりたいことでしょう。そうです！ 実は、ベッドを共にした女性たちは、夜が明ける一時間ほど前に私の元から脱け出し、おとなしく静かに寝ていれば、起き出す時間には誰か人を寄越して私を救出してあげると言いました。そういう次第で、朝九時ごろに、老婆がやってきて布を解いてくれました。私を苦しめた連中に復讐を決意し、自由になり次第懲らしめてやるのだと考えながら、この屈辱に辛抱強く耐えました。ところが、二人の婦人はどうしているかと老婆に尋ねると、ご婦人方は朝五時六分前に馬車で発たれましたので、今頃はパリのすぐ近くまで行っておられると思うと応えるのでした。

第91号 1711年6月14日（木曜日）

【スティール】

彼らは炎の中に飛び込む。なぜなら、

愛はすべての主人であり、いつまでもそうであるから。

（ウェルギリウス）¹⁾

本日触れようとするテーマは当然のことながら喜劇の土台となるものですが、若いご婦人から聞いたロンドンのある家族の恋愛沙汰にまつわる話にこれを差し挟んでみたいと考えます。この話に関しては、話を響きの良いもの、つまり、話を高尚なものにするために、具体的に某夫妻とはせずに、仮名を用いることとします。前置きはこれくらいにしまして、早速ですが、特別行政区ウェストミンスター市にレディー・オノリアという名の、40歳くら

1) ウェルギリウス『農耕詩』3.244.

いの健康的で陽気で優雅な未亡人が住んでいます。彼女は少女のような服装をし、声の調子には子供っぽいところが伺え、時折、少しすねたように頭をかしげたり、伏し目がちに扇に目をやったりします。彼女の考えや振舞いを見ていると、どうも自分が20歳を超えているとの自覚はありませんし、また、感傷的で傷つきやすい魅力を振り撒いているものの、自分には間もなく14歳になろうかという大きな娘がいることも認識していないようです。この娘は生意気にも部屋に出入りします。彼女は大人っぽくなっていますので、母親はいつも娘の存在によってチェックがかかります。フレイヴィアが入って来ると、オノリアの魅力はことごとく衰えてしまうのです。母親のオノリアはもちろん、感じの良いフレイヴィアも将来、現在とは違った人物になることでしょう。二人の周囲にいる人々は誰もが、すでに享受し、永遠に過ぎ去ったものよりも、これから先のある人をひいきにします。そこで、フレイヴィアには将来を考えることが、オノリアには過去を振り返ることが許されます。フレイヴィアは自分の運勢について一切母親を頼りません。そのため、二人はほど対等な関係で生活をしています。オノリアがフレイヴィアに始終お母さんと呼ぶのは無作法なことだと教えてきましたので、フレイヴィアもまた娘と呼ばれることを好みません。こういった次第で、たまたま二人が同席するような場では、大体二人はライバルとなり、悪意からではないのですが、母と娘という言葉は二人の間で交わされることはありません。ある夜のこと、劇場で、オノリアが一階席にいる数名の人から注目されているのに気づいたフレイヴィアは、隣の婦人に声を掛け、母親からちょっとかぎタバコ入れを貸してもらって戴けないかと頼みました。また別の機会に、オノリアの恋人がひざまずいて手にキスをさせて欲しいと懇願しているときには、突然部屋に現れたフレイヴィアはその男性のそばにひざまずき、お祈りをするのでした。こういった親子とは思えぬような反抗的な振舞いが度重なったために、二人の間には冷ややかな関係が出来上がり、二人が同席するときには、たいていの場合、互いに話し合うというより一方的に話し掛けることで会話が成り立っているのです。オノリアはさらに、まるで人々の評価は自分たちが一

人占めしているかのように、自分たちにはすべてが備わっているのだと決めてかかっているこの年齢の娘たちに伺えるある種の満ち足りた状態について不満を述べています。つまり、オノリアが言うには、年齢以外のことはすべて顧みられないか無視されているのだということなのです。こういった挑発に対して、必ずフレイヴィアは何事につけ諦めることができず、自分には無理だと分かっているのに諦める方法を知らない人々がいるのだと言います。そしてまた、彼女は、自分たち自身が過去の人になったからではなく、いつまでも道楽を続けたいがために、若者の道楽を認めない人たちがいるのだと言います。この二人は、互いに、ことあるごとに張り合います。二人に同じように恋人がいるということではなく、相手に自分の恋人の魅力を見せつけようとして見栄を張るのです。特に、ディック・クラスティンとトム・チューリップがこのところこの家に入出入りしています。ディックはオノリア、トムはフレイヴィアのそれぞれ恋人です。ディックは前世紀の洒落者の生き残りで、トムもまたその種の気質を保持している数少ない人物です。

私が同席の光栄に浴した場でこの娘が見せた気持を含めて、四人のやりとりを再現できたらいのにと思います。オノリアを愛慕するディック・クラスティンとフレイヴィアに執心するトム・チューリップは、二人の婦人から故意に鉢合わせさせられたようです。つまり、二人はそれぞれ、無邪気で思慮にかけた女性が申し分の無い紳士と呼ぶのですが、この種の人物としての心得は自分の恋人の方が優れているのだと相手に見せつけようとしたのです。他のあらゆる面と同様に、求愛に対する現代の嗜好は、前世紀に比べてはるかに粗野になっていますので、この二人の紳士の心の傾注の仕方は異なりませんが、その具体例となっています。チューリップは絶えず自分の身体にみなぎる活力や筋骨たくましい体格のことをほめかしていますが、一方のクラスティンは恋人の心の変化に関するこまやかな気配りを口にします。チューリップは恋の虜になっているのだといった雰囲気醸し出し、クラスティンは手だれの恋人といった雰囲気を持ちます。詩歌は恋をするすべての人にとって切っても切れない小道具となります。そういった場合、才人は詩を作

りますが、その他大勢の人たちは他人の詩を復唱します。婦人たちに忠誠を尽すこの二人は、顔を合せて何か対話を交わすというよりも、終始相手のやり方の真似をし、相手のことをそれとなくほめかすのでした。先日、チューリップは恋人の手を取り、オヴィディウスの『愛の技術』の一節を口にしました。

私はしばしば夜は静かな胸壁の中で過ごした。

だが、翌朝は勢いよく起き出し、戦いに備えた、

陽光のようにはつらつと活力に溢れて。²⁾

これを聞くと、敬意を払う素振りを見せたクラスティンは、オノリアの扇をもてあそびながら、つぎのように口ずさみました。

シドレイはあの効を奏する穏やかなわざを備えている。

攻し難い魅力を備えたそのわざはこの上なくみだらな願いに

この上なく貞節な心を授けることができる。

墮落しなかった徳と願望の間に葛藤を引き起こし、

情熱の炎をかきたてる。やがて、征服された可哀相な

乙女は、夜は夢にまどろみ、昼間はため息と涙に包まれる。³⁾

クラスティンが熱情と敬意をない交ぜにしたやさしい調子でこの詩句を口にしたとき、オノリアはフレイヴィアに勝ち誇ったような一瞥を投げ掛け、クラスティンの優雅な求愛の方法に大喜びをし、チューリップの求愛の陳腐さを非難するのでした。そのあざけりを知ったチューリップはお返しに恋人の心を可能な限り遠くに振り向け、自分たちの青春は遠い過去のものだったのだということを忘れさせた多情の老紳士の知恵を称賛し始めたました。そして巧妙にプラトンの愛の教義を口にして彼の話を終えました。同時に、彼は笑っているような目つきでクラスティンの細い足と貧弱な容貌、そして瘦

2) ジョン・オールダム (1653-83) による翻訳。

3) ロチェスター伯ジョン・ウィルモット (1647-80) のよく知られた詩「ホラティウス第1巻の10番目の諷刺に寄せて」64-70行。スティールは第400号と1712年6月1日付けのポーブへの手紙にも、この同じ箇所を引用している。

せぎすの体を眺めました。老紳士は直ちに心を取り乱してその部屋を出て行きました。そして、恋を求める時宜を得ない熱情、時機を失した青春といった話になりました。チューリップは歌い、踊り、姿見の前まで移動し、恋人をメヌエットへとリードし、「麗しのシーリア、15の花盛り」⁴⁾と口ずさみました。そのとき、チューリップ宛てのつぎのような手紙を持った召使が入ってきました。

謹啓

貴殿がプラトンの愛ということで何をいわんとしていたかは小生にはよくよく分かっています。即刻、ハイドパークかモンタギューハウス裏か、バーン・エルムズないしその他貴殿の指定する紳士が死を迎えるのに相応しい場所でお会いしたいものと考えます。⁵⁾

謹白

リチャード・クラスティン

この書簡を読むやチューリップの顔色が変わりました。そこで、恋人はその手紙をひったくり文面に目を通しました。チューリップは彼女が手紙を読んでいる間に出て行きました。さて、同じように災禍に見舞われることを知った婦人たちは二人して恋人に訪れる危険を嘆き悲しみました。直ちに二人は外出するために着替えをして、災いを防ごうと馬車を駆りました。町中にお

4) ドライデンの「新しい歌（麗しのシルヴィア）」は1685年に『シルヴィー』に匿名で発表された。

5) 決闘によく使われた場所。モンタギューハウスは現在大英博物館のあるブルームズベリー・スクウェアの北西の角近くにあった。ハットン「ブルームズベリーのそばのグレートラッセル・ストリートの北側に位置するモンタギュー公爵閣下の住まいであり、実に堂々とした美しい宮殿」だと述べている。1677年に建てられたこの宮殿は、煉瓦と丸木作りで、三方が中庭に面していた。北側には泉とテラスと彫像がいくつか置かれていた。バーンズ近くのバーン・エルムズには様々な居宅があったが、そのひとつに「キットキャットクラブ」が会合を持ったジェイコブ・トンソンの家があった。

触れを出した後、クラスティンは正装をして恋人と共にハイドパークで待ち構えました。一方、チューリップは約束を守らず、田舎に逃げ出したのでした。フレイヴィアは不名誉にも身の安全を保った恋人チューリップのことを考えて髪の毛をかきむしり、悪態をつき、彼のことを軽蔑するのです。そして、クラスティンに恋をしてしまうのです。以上がライバル・マザーの第1部なのです。⁶⁾

第92号 1711年6月15日(金曜日)

【アディソン】

まるでバラバラの客人のようだ。好みは多様で、
多種多様な料理を要求する。何を供したらよいのか。
何が駄目なのか。(ホラティウス)¹⁾

最近届いた手紙の束に目を通していきまして、つぎの手紙に目がとまりました。

拝啓

私にとりまして、貴紙はお茶の道具の一部²⁾となっています。召使は私の気性を十二分に理解しています。そこで、(定刻を過ぎていましたが)今朝、朝食を要求しますと、彼女はお湯は沸いていますが、『スペクテイター』がまだ届いていません、間もなく届くと思うのですが、と応えるのです。このように私はあなたに尊敬の念を示していますので、どうかあなたが私たち女性のために推薦するとお約束になられた蔵書の目録³⁾のことをお忘れにならな

6) 王政復古期には類似のタイトルを持った芝居がいくつかあった。例えば、リー作『ライバル・クウィーンズ』、ドライデン作『ライバル・レイディーズ』、ジョン・バンクス作『ライバル・キングズ』、ロバート・グールド他作『ライバル・シスターズ』など。オノリアという名前の人物はドライデンの作品に登場する。

1) ホラティウス『書簡詩』2.2.61-63.

2) 第10号参照。

いで下さい。と申しますのは、私はこの点に関しましてあなたの助言があるまで、私の部屋に書物を備えるのを後回しにしているのです。私はあなたを日々師と仰いでいます。何卒宜しく願い申し上げます。

レオノーラ

私がとても誇らしく思っています麗しの門弟への返事としまして、彼女およびその他読者のみなさんに、私が婦人の蔵書目録作成に力を貸して欲しいと発言してからというもの、数多くの手紙を受け取っていることをお知らせしておかなくてはなりません。本日はそのうちのいくつかをご紹介しますと考えます。

まず最初に優れた書籍商からの手紙を取り上げます。彼らは一様にして自分たちが出版した書物の著者に敬意を払っています。そのため、ご婦人方のためというよりも自分たちに有利になるように配慮しています。ある書籍商によれば、婦人が正義と公正に対して正しい認識を持つことが絶対不可欠だと考えるので、ダルトンの『国の正義』⁴⁾に勝る良書はないと言います。また別の書籍商は『乗馬の名手』⁵⁾を推薦します。女性が生まれつき持っている欲望だということですが、秘密を覗き見たいという好奇心と欲望に目をつける三人目の人は、この女性の性癖を上手に扱えば、大いに女性のためになると考え、『ミード氏の意外な事実』⁶⁾を推薦します。四人目は、『デストラーデ元帥の密約』⁷⁾を読まない限り申し分のない婦人になれないのは疑問の余地のない真実だと断言します。ジェイコブ・トンソン・ジュニア氏は、婦人を博学にするためには、バールの『歴史的批判的辞典』⁸⁾が大いに役立つとの意見

3) 第37号参照。

4) リンカーンズ・インのマイケル・ダルトンの著作で、初版は1630年。

5) 出版は1695年。

6) ジョセフ・ミードの *Clavis Apocalyptica* (1627) は1643年にリチャード・モアが翻訳し、宗教界で人気を博した。

7) デストラーデはルイ14世がローカントリーズに派遣した大使。

8) ピエール・バールの『歴史的批判的辞典』は、ロッテルダムで1697年に出版された。ジェイコブ・トンソンたちが英語に翻訳し、1710年に4巻で出版し

を述べます。名前は忘れましたが、また別の人は、子供のいる女性は当然ウォール氏の『幼児洗礼の歴史』⁹⁾を読むべきだと考えています。また別人は、全女性は『とどめの一撃：父権社会の擁護』¹⁰⁾を執拗に推しています。

つぎに、著者がそうだと信じる事が出来ればの話ですが、夫たちが推薦する書物を取り上げます。私には彼らが正真正銘の夫であるか、それとも夫を詐称しているだけなのかは見分けがつきませんが、この人たちが推薦する書物には、『改編スザンナ物語』¹¹⁾、『四旬節を祝うルール』¹²⁾、『食い止められたクリスチャンの滅亡』¹³⁾、『劇場通いを思いとどまらせる方法』¹⁴⁾、『ヘンナの功德とヘンナ・ティーの作り方』¹⁵⁾、『カントリーライフの喜び』¹⁶⁾、『言葉づかい』¹⁷⁾などがあります。チープサイドから届いた手紙には、私の口から、若い妻はすべてウィングイトの『算術』¹⁸⁾を読むよう助言をして欲しいとの意向が述べられています。そしてその手紙の追伸では、『ケント伯爵夫人の秘訣』¹⁹⁾もお見逃しのないようにとの希望が述べられています。

た。アディソンはこの辞典を愛用したと言われている。第81号参照。

- 9) 1705年に、ケント州ショーハムの牧師、ウォールが出版した。
- 10) 宣誓拒否者のジャコバイト、チャールズ・レスリーの著作で、1ヶ月ほど前に出版されたばかりだった。
- 11) パウエルの人形芝居に「貞節なスザンナと邪な二人の年長者」という作品があった。この芝居に登場する人物はヘブライとバビロニアの服装をしていた。
- 12) 四旬節の時期にはこの種のものがよくでた。
- 13) 神学博士ロバート・モスが、1705年4月22日、セント・ジェームズ・チャペルで女王を前にして、この法話を行なった。大英博物館には、1707年の第3版と1710年版が所蔵されている。モスはイーリーの首席司祭となった人物。
- 14) 1703年に出版されたジェレミー・コリアーの著作。
- 15) このタイトルの著作は見当たらないが、カンファー、つまり、カンフル（強心薬）に関する論考は *Philosophical Transactions*（自然科学紀要）に種々掲載された。
- 16) このタイトルの著作は見当たらない。
- 17) 『タトラ紙』第74号に言及されている。
- 18) エドモンド・ウィングイトのこの書は1630年に出版され、その後増刷された。
- 19) 第7代ケント伯爵夫人エリザベス・グレイ（1581-1651）のもので、その後再版が繰り返された。

寄稿者および相談役の中から三番目に、ご婦人方自身からの手紙を取り上げます。ある婦人から、目録のトップには『ファラモン』²⁰⁾を置き、もし私が適切だと考えるならば、二番目には『カサンドラ』²¹⁾を持ってきたらどうかとの助言がありました。コケティラからの要請では、女性を祈禱書で縛り付けたり、家事の手引書を押し付けたりしないで欲しいということです。フロレラは淑女ぶる女性を批判した書物は探しており、もしあれば、蔵書に加えて欲しいということです。様々な戯曲を取り上げる人たちもいます。例えば、『恋ゆえに』²²⁾を推挙する手紙は15通を超え、『ソフォニスバ、ハンニバルの滅亡』²³⁾は12通にのぼり、『あどけない不義』²⁴⁾も同様に高く評価されています。『ポントス王ミトリデタス』²⁵⁾、『アレキサンダー大王』²⁶⁾、『オーレングジープ』²⁷⁾、『テオドシウス、愛の力』²⁸⁾にも多くの支持者がいます。

最後に、学識者およびこの件に適切な判断が出来ると思われる人たちが推薦している書物を取り上げ、助言をいただいている二通の手紙では身元を明らかになさっていませんが、この機会に A.B. 氏²⁹⁾にお礼を述べるべきです

20) 第76号参照。

21) 第37号参照。

22) ドライデンのこの悲劇は、1709年5月2日、サーモンドとナイト夫人たちによって、ドゥルーリー・レイン劇場で上演された。

23) ナサニエル・リー (?1653-92) の作品。1709年12月31日、ドゥルーリー・レイン劇場で上演された。

24) トマス・サザン (1660-1740) の作品で、副題は「不運な結婚」。1710年11月14日、ヘイマーケット劇場で、1711年5月1日、ドゥルーリー・レイン劇場で上演された。

25) ナサニエル・リーの悲劇。1708年2月14日、ドゥルーリー・レイン劇場で、1709年6月20日、グリニッジのペンケスマン劇場で上演された。

26) ナサニエル・リー『好敵手女王』の副題。第31, 36, 39号参照。

27) ドライデンの悲劇。1711年2月24日、ドゥルーリー・レイン劇場で上演された。

28) ナサニエル・リーの作品。1707年4月3日、ヘイマーケット劇場で上演された。

29) エイトキンは、このイニシャルはエディンバラのスコットランド法教授アレキサンダー・ペインの可能性があると示唆している。彼は、この当時、ロン

が、私が着手しています仕事は一筋縄ではいきませんので、いましばらく先送りすることと致します。それまで賢明なる方々の考えをもっとよく知り、彼らの推薦する書物を吟味したいと思います。当座は慎重に進めることにします。

話が変わりますが、私は特に婦人のことに関心を寄せていますので、古今の優れた作品の中から婦人のためになるような文章を見つけ、可能な限り婦人たちに資することを私の務めにしたいと思います。婦人の振舞いに伺える真面目な非難の対象というよりは嘲笑するのに相応しい取るに足らない虚栄や愚行を私が時折笑い飛ばしても、きっと物事の判断が出来る婦人は私のことを大目に見てくれることでしょう。大半の書物は男性の読者を想定し、また、おおむね学識者を意識して書かれていますので、この種の仕事はなおのこと必要になります。おまけに、私のこういった思索によって婦人が日々向上しているものと自負していますので、私は一層鼓舞されているわけです。我が女性の読者はすでに洒落者よりも学識が備わっています。ウィル・コーヒーハウス³⁰⁾で異彩を放っている紳士たちよりもはるかに巧みな話をする女性を何名か挙げることが出来るでしょう。私はしばしば立派な婦人や洒落者から手紙を受け取りますが、思慮分別の点だけでなく文字の綴り方の点でも洒落者より婦人の方が優れていると言わざるを得ません。このことは女性の世界に良い影響を及ぼします。そして、女性はこれまで男性からは嘲笑されていたが女性たちから称賛されていた取るに足らない洒落者を遠ざけることになります。

トム・タトルは、ウィル・トリペットが薄々感づき始めているしゃらくさい人物とみなされているのだということ、そしてまたフランク・スムズリー自身は、私がこのままスペクテイターを続ければ、1ヶ月以内に洒落者になるのだという情報が確かな筋から私の元に寄せられています。私としまして

ドンで弁護士をしており、その名前は『スペクテイター』8巻本版の購読者のリストに載っている。

30) 第1号参照。

は、どちらかと言いますと、機知、思慮分別、ユーモア、勇敢を偽って意志の弱い人たちを惑わす人たちを見つけ出すことを本分としていますので、こういう発見を継続することで、出来るだけ女性のために力添えをしたいと考えます。

第93号 1711年6月16日（土曜日）

【アディソン】

限られた人生に長のわずらいを持ち込んではいけない。

また、いつまでも希望や恐怖を引きずってはならない。

言葉を交わしているこのときにも、嫉妬深い時は足早に
去って行く。だから、今を捉え、盛りのときを活用し、

明日をあてにしてはならない。(ホラティウス)¹⁾

セネカによると、私たちはだれでも人生の短さを嘆いているが、やるべきことは想像以上に沢山抱えているのだということです。²⁾私たちは人生を無為に、あるいは無駄に、また当然すべきことを何ひとつせずに過ごしているのだと彼は語っています。私たちは常に時間が足りないことを嘆き、その一方でまるで時間には際限が無いかのように振る舞っています。この崇高な哲学者は、彼の著述に特有の様々なひねりを加えた表現や思考を巡らせて、この点に関する私たちの矛盾をついています。

私は、しばしば、人が人生の短さにある種の共感を抱いているという点において、人間は完全に矛盾した存在であるとみなしています。私たちは一般に人生が短いことを嘆くのですが、ことあるたびに、早く過ぎ去って欲しいと願っているのです。未成年者は成年になり、仕事につき、財産を築き、名誉を手に入れ、隠退することをあこがれます。このように、誰もが一生は短いものと思っていますが、その節目節目は長くて退屈なものようです。私

1) ホラティウス『頌詩』1.11.6-8.

2) セネカ『人生の短さについて』。

たちは一般に人生が延びることには賛成していますが、人生の節目は喜んで短縮するのです。金貸しであれば、現時点とつぎの四季支払い勘定日までの時間が消えてしまうと大いに満足することでしょう。政治家なら、3年後も自分に同じ地位が約束されるなら、今の3年間をなくしても満足することでしょう。恋人なら、自分の生活から幸福な出会いまでの時間をすべて削除しても満足することでしょう。このように、時の経過は早いのだが、人生の随所ではたいていの場合、実際よりももっと早く時が流れることを願っているのです。一日のうちの数時間をもてあましているのです。いや、何年も過ぎ去ったらいいのにと思っているのです。そして、人生のあちこちにばらまかれているささやかな定住地、つまり、想像上の憩いの地に到達しようとして、まるで足早にやり過ごす不毛の荒野を通過するように、時の中を移動するのです。

ひとの一生を20の部分に区分してみると、たいていの場合、少なくともそのうちの19の部分は、喜びにも仕事にも無縁の単なる間隙つまり隙間にすぎないことに気づくことでしょう。しかしながら、この計算では、私は絶えず多忙を極めている人物の人生は含めず、必ずしも常に活動の場面を与えられているとは限らない人たちだけの人生のことを言っているのです。私がこういった人たちに空虚な時間を埋め合わせる方法を示しましたら、それがどうか役立って欲しいものと期待しています。私の提案します方法とは以下の通りです。

第一の方法は、ごく普通の意味での徳の実践です。社会生活を営む上で必要な徳を包含するこの方法を採用入れることで、勤勉な人たちはとても多忙になります。無知な人たちに助言をし、困窮する人たちを救済し、悩んでいる人たちを励ますことが、ほぼ毎日のように降りかかって来る務めとなります。剣呑な人たちの精神状態を和らげたり、人々を公平に評価したり、嫉妬深い人たちの心を和らげたり、激怒している人たちをなだめたり、人々の偏見を取り除いたりする機会がしばしば訪れます。こういったことはすべて道理をわきまえた人たちが携わるのに相応しい仕事となり、思慮深くそれに取

り組むことが出来る人には大きな満足感をもたらしめます。

隠退して人との交わりもなくなり完全に自分だけの世界に入ったときに目標となる別種の徳もあります。つまり、道理をわきまえた人物なら誰もが維持すべき造物主との交わりのことを私は言いたいのです。絶えず神の存在を意識しながら暮らしている人は、気分は常に爽快であり、いかなる時でも自分には最愛で最良の伴侶がついているのだと考えて満ち足りた気持ちになるわけです。そういった人には時が重くのしかかることはありません。彼がひとりぼっちになることはあり得ません。彼の思いや熱情は、他の人たちのそれが眠っているときこそ意欲的に活動するのです。隠退するや否や彼の心は信心に打ち込み、希望で胸が膨らみ、自分の周囲至る所に神の存在を意識して歓喜に包まれます。それどころか、彼は恐怖や悲しみや不安を彼の生存を支えてくれる偉大な後援者に振り向けることができるのです。

私はここでは人が何かすべきことを持つには徳高くなる必要があるということを行っているに過ぎません。だが、さらに進んで、徳の実践は人生が存続している間の関心事であるだけにとどまらず、その影響は来世の存在にまで及ぶのだということ、そしてまた、私たちの永遠の世は私たちが現世で美德あるいは悪徳に費やす時間をまねるのだということを考慮すると、以上の時間の過ごし方を実行に移すべきだという主張が重みを持ってきます。

向上する点がわずかしがなく、そのわずかな機会をとらえて利益を得ようとする場合、19の部分が無気力に過ごし、20番目の部分までも破滅あるいは不利益を生ずるような過ごし方をするとしたら、その人のことをどのように考えたらいいだろうか。しかし、人の心は必ずしも常に熱意に駆られる状態を保つことは出来ませんし、また、常に徳高く心をはりつめておくことは出来ませんので、何か相応しいくつろぎを見出すことが必要です。

そこで、つぎに私が提案する時間をふさぐ方法としては、有益で無邪気な気晴らしとなります。正直なところ、単なる無邪気な気晴らしにすっかり浸り込み、ほかにやるべきことが何もないとしたら、それは道理をわきまえた人には相応しいこととは思われませんが、そういった気晴らしには害がない

のも確かです。どんなゲームが相応しいかは、私にはきめかねますが、良識を備えた人たちがいろいろな数の黒札や赤札のこと以外は何も考えず、話題もゲームのことだけに限って、12時間に渡ってカードを切ったり配ったりしているのを見掛けるのはとても素晴らしいことだと思います。こういった人たちが人生は短いと不平を言っているのを聞くと誰だって笑いを誘われることでしょう。

芝居は、取り締まりさえきちんとすれば、終生、非常に崇高でかつ有益な気晴らしの供給源となるでしょう。

だが、選り抜かれた友との会話ほど気持が心地よくくつろぐものは他にはありません。実際、人生の祝福として、慎み深く徳高い友に匹敵するものは他には見当たらないのです。友と交わることで、気持は楽になり心の重荷を降ろし、悟性が磨かれ、向上します。思考力や知識が育まれ、徳が鼓舞され、行いを改めようと決心します。熱情は鎮め和らげられます。そして、人生の暇な時間を埋め合わせる手だてが見つかります。

特定の人とのこういった親交のつぎには、もっと幅広く、これは親交を結ぶ場合の資格として切り離せないものとなりますが、交わることで楽しみかつ向上出来るそんな人たちとの親交を求めることになります。

人生の気晴らしは他にも有益なものがいろいろあります。そこで、ことあるたびに、無為に過ごしたり人生にたまたま生起する熱情に駆られて振り回されるよりもむしろ、その気晴らしに頼ることになります。

音楽や絵画や建築に興味がある人物は、そういった芸術に一切趣味を持ち合わせていない人物と比較すれば、まるで別の感覚を備えている人物のように見えます。草花の栽培、植物の栽培、庭いじり、畑仕事は、それが資産家のたしなみである場合には、田舎での生活には大きな息抜きとなり、大いに役立ちます。

しかし、人生におけるあらゆる気晴らしのうちで、空虚な時間の埋め合わせとしては、有益で面白い著作を読むことにまさる気晴らしは他にはありません。だがここでは、簡単に触れるだけにとどめます。なぜなら、機会を改

めて提案したいと考えています生気がなく活動を停止している時間を埋める第三の方法と幾分抵触するからです。そこで、ここでは一般的に知識の探求が大切なのだとだけ言っておきます。

第94号 1711年6月18日（月曜日）

【アディソン】

過ぎ去った人生を楽しむことが出来るということは、
2倍生きることになる。(マルティアリス)¹⁾

怠惰な人々にとって退屈この上なくかつ煩わしい空虚な時間をふさぐ方法として、私が土曜日の紙面の最後で提案したのは、知識の探究です。私は、ボイル氏が、ある鉱物について語っている中で、一生をその鉱物の研究に費やしても、その鉱物の本質がすべて理解できるようにはならないのだと言っていたのを思い出します。²⁾その真意は、仕事は実際よりはるかに長くかかるのだが、個々の科学であれ、科学の一部門であれ、一生の仕事になるということなのです。

私はここでは知識の効用とか、知識が精神に与える喜びや卓越といった言い古されたテーマについて語るつもりはありません。また、知識を獲得する方法について具体的な方法をお勧めするつもりもありません。そういったことはすべて、これまでに多くの方が扱ってきています。私はあまり知られていないこと、従って、おそらくもっと興味深いと思われる思索にふけりたいと思います。

無為に過ごす人生が長く退屈に思えることはすでに述べましたので、本日は研究、読書、知識の探求に充てられる人生は、長い退屈ではないのだということを明らかにしたいと思います。そして、そうすることで人生を延ば

1) マルティアリス『警句』10.23.7-8.

2) ロバート・ボイル (1627-91)『実験的自然哲学の効用に関する若干の考察』(オックスフォード、1664年) 12-13頁。

す方法を、同時に、人生を有効に使う方法を発見したいと思います。

ロック氏は「つぎつぎに生起する一連の考えに思いを巡らせることによって、我々は、時間、つまり、時間の存続を意識する。このため、夢を見ないで熟睡する時には、我々は、時間、つまり、時間の長さを意識することはない。従って、思考を停止した瞬間から再び思考を開始する瞬間までは、時間の経過がないものと思われる。」さらに、ロック氏は「だから、他の考えにとらわれずに、ひとつのことだけを考え続けることができるとすれば、それは覚醒している人物にのみ可能なことだと思う。真剣に熟考している間に頭に去来する様々な考えにとらわれなずに一心にあるひとつのことに集中している人は、頭の中から時間の存続ということはほとんど抜け落ちており、時は実際よりも短いのだ考える。』³⁾のだと語っています。

この考えをさらにおしすすめると、人間というものは、一方では、何も考えないかあるいはほんのわずかなことしか考えないで時間を縮めているのであって、他方では、様々なことに、つまり、迅速にまた絶えず一連の考えに思いを巡らせることで時間を延ばしているのだと考えることができるでしょう。マルブランシュ氏⁴⁾の『真理の探究』(本書はロック氏の『人間悟性論』の数年前に出版されたが)によると、人によっては30分を千年と考えることが可能である、つまり、1分という時間を1時間、1週間、1ヶ月あるいは生涯と考えることが可能だということです。

マルブランシュ氏のこの考えについては、ロック氏から引用した箇所を基にして若干の補足説明をすることができます。もし時間に対する概念がつぎつぎに生起する一連の考えに思いを巡らせることから生み出され、この連続が無限に加速されたり遅らされたりするのであれば、たとえ存続時間は同じであっても、その時間に対しては、考え方次第で人はそれぞれ明確に異なり、お互いに速度は違ってくるのです。

3) 『人間悟性論』2.14.4.

4) マルブランシュ(1638-1715)『真理の探究』(1674)は、テイラーが英語に翻訳し、1700年には第2版が出版された。

以上の考え方に關しては、マホメットも同じような考え方をしていたのではないかと思わせる有名な一節が、『コーラン』に載っています。⁵⁾その箇所では、「天使ガブリエルが、七つの天界、天国、地獄の万象を見せるために、ある朝眠っているマホメットを連れ出します。そして預言者マホメットはそれをはっきりと目にします。そして、マホメットは神と9万回に及ぶ対話を終えて、再びベッドに連れ戻された。」となっています。また『コーラン』によると、こういった出来事はすべて非常に短時間のうちに行なわれたので、マホメットが帰宅したとき、ベッドはまだ温かく、(天使ガブリエルが彼を連れ出したときに倒れた)陶製の水差しは水がすべてこぼれてしまわないうちに起こした、ということになっています。

『トルコ物語』にも、この名高い詐欺師に關係し、ここで扱っているテーマにある程度類似した非常に興味深い話が載っています。⁶⁾信仰心の薄いエジプトのスルタンは、いつもマホメットの生涯の出来事を全く不可能なことで馬鹿げていると笑っていました。だが、スルタンが、ある日、奇跡を起こすことができる偉大な法学者と話をしているときに、その学者はもしスルタンが自分のいう通りにすれば、すぐにでもマホメットの物語が真実であることを納得させてあげられると言いました。そして、水がはられた大きな桶のそばに立つようにと指示され、スルタンはその指示に従いました。廷臣たちに見守られながら桶のそばに立ったとき、徳高い学者は彼に顔を水につけてもらいたいと言いました。そこで王は顔を水につけました。するとそのとき、王は自分が海岸沿いの山麓にいたのだと気づきました。王はすぐさま、呪術を使って自分をペテンにかけた学者をののしり始めました。でも、ついに、腹を立てても無駄だということが分かって、どうしたらこの未知の国で暮らしていけるか考えました。そこで、王は近くの森で働いている人たちに注意を払いました。この人たちは彼を森の近くの町へ連れて行きました。町であ

5) コーラン第17章「夜の旅」はマホメットが夜中にエルサレムに旅する話であるが、ここではチェク・ゼイドの『トルコ物語』が下敷きとなっている。

6) 『トルコ物語』「チェク・チャハベディンの話」25-41頁。

れこれ冒険した後で、彼は富裕なとても奇麗な女性と結婚しました。この女性との暮らしは随分長く続き、息子が7人と娘が7人できました。その後、彼は大変な窮乏生活を強いられ、生計を立てるために街中で荷物運搬人として働かざるを得なくなりました。ある日、彼に敬虔な気持ちを起こさせることになっていたのですが、これまでの生活と現在の生活についていろいろ沈黙考しながら、海岸をひとりで歩いているとき、彼はお祈りを捧げる前のイスラム教徒の習わしにしたがって、身を清めようとして衣服をかなぐり捨てました。

海に飛び込んで、水面に顔を上げてみると、自分が桶のそばに立っていることに気づきました。廷臣たちは周りに立っており、徳高い学者もそばにいました。彼は直ちに、自分にあのような冒険をさせ、だまして長年に渡る悲惨で苦しい状態においやった師を厳しく責めました。だが、彼の語る状態は夢であり錯覚に過ぎず、彼はこの場所から一步も動いていなく、ほんの束の間顔を水につけたただけなのだと聞かされて非常に驚きました。

イスラム教徒の学者は、この機会を捉えて、スルタンに、神がついていればどんなことだって可能だということ、つまり、神はその気になれば、人々に、一日いな一瞬を千年だと思わせることができるのだということを教えました。

以上の東洋の物語と本紙で引合いに出しました二人の偉大な哲学者の考え方との比較は読者のみなさんにおまかせしたいと考えます。ただ実際の教訓として、読者のみなさんには、知識の探求に専念することで、人生を延ばすことができるかも知れないということを考えて戴きたいと思います。

愚かな人の時間が熱情によって延びるように、賢明な人の時間は思考することによって延びるのです。どうしていいか分からないために時間が長い人もいれば、反対に、刻一刻なんらかの有益で興味深い考えを巡らせるために長い人もいます。言い換えると、時間というものに対して、いつも早く過ぎ去って欲しいと願っているために長く感じる人もいれば、また、いつも享受しているために長く感じる人もいるということなのです。

過ぎ去った人生に対する考え方は、知識と知恵をつけて老年に達した人と無知と愚行を重ねて老年に達した人との間では大変な違いがあります。後者はちょうど不毛の土地の所有者のようなものです。目に入る物は裸の山と平地の眺めだけで、有益なものや装飾になるようなものは何一つ生み出しません。一方、前者は、快適な庭、緑の牧草地、実りの多い畑に区分された美しく広々とした風景を目にするのです。そして、自分の領地のどこを見ても必ず美しい植物や花で覆われているのです。

第95号 1711年6月19日（火曜日）

【スティール】

瑣末な心配は口を開かせ、重大な心配は口をつぐませる。

（セネカ）¹⁾

つぎに掲げます2通の手紙は大いに満足して読ませて戴きましたが、私はお二方の良識はみなさんにとって好ましいものと思わざるを得ません。お二方ともそれとなく私がこれまでに紙面で述べたことに触れていらっしゃるようです。心的な哀悼について述べておられる最初の手紙は、男らしい気質には涙を通り越した悲嘆を強く求めるところがあるということを熟知した人物の手になっているのは間違いないものと思います。このテーマに関する私自身の思索は、また機会を改めて述べることにします。

第2の手紙は優れた知性と分別を備えた婦人からの手紙です。書き出しの部分にはおそらく慎重深く伏せておくべき点があるのですが、私はこの寄稿者の方を非常に尊敬していますので、嘲笑されることに対しては用心深い私ですが、彼女の書いている内容に一切変更を加えないでおきます。

1) セネカ『ヒッポリュトス』607.

拝啓

一般的な服喪に関する貴殿のお話²⁾大いに満足しました。この件にもっと深く立ち入って、悲嘆の表明について普通の人々が持っている常識について貴殿のお考えを述べて戴くと有難いと思っています。人々は、最も近い人や親友が亡くなるといった非常に重大な悲嘆に対して、一定のルールや流儀を規定しているのです。病気の友人を見舞えば必ずと言っていいほど、無礼な従者から顔の筋の動きがまるで死か回復の予兆となるかのように、顔をジロジロ観察されることになります。たまたまこの友人が亡くなりでもしたら、故人に対する悲嘆や評価のほどを測ろうとして、物悲しく肩をすくめている様子や哀愁に満ちて首をかしげている様子や意味深長に表情をゆがめている様子を待ち受けている多くの観察者に取り囲まれることになります。こういった時に彼らに気に入られるのは、何と言ってもさめざめと涙に暮れることなのです。彼らの気持は表面的ですので、彼らは愛と友情の席は目に見える形をとるのだと思い込んでいます。彼らは生者への優しさをどの程度持ち合わせているかを死者に流す涙の量で判断します。そこで、他の人に比べて涙の量が不足している場合には、その人は多分にして無神経だとか意地が悪いと思われてしまいます。彼らはハンカチがぐっしょりなるほど涙を流さない友情もあるということを知らないのです。ところで、この外面的な悲しみのしるしほどあてにならないものはないのだということは経験が教えてくれているところです。そして、身体の発達史をひもとけば、この涙の流出、つまり、泣く機能というものは、ある体質に特有のものだということが分かります。感じやすい子供の身体の場合、ささやかな願いや望みが妨げられるだけで、いとも簡単に泣き崩れます。もしこれが大人の悲嘆の場合だったら、過度の悲しみに暮れる彼らに、造物主の救いの手がさしのべられることはないでしょう。さらに、彼らはいとも簡単に悲嘆から喜びへと移行します。子供たちについて感じやすい人の場合は、しばしば、さほど悲しくなくても涙

2) 第64号参照。

を流します。しばしば、あまり悲しくなくても涙を流すように、涙を流さなくても悲嘆に暮れることもよくあるのです。実際、悲嘆にはしばしば涙がつきものですが、私の考えでは、過剰な涙は別だと思います。心からの喜びに笑いが生じないように、涙もまた深い悲しみからは生まれません。たやすく目に現れる悲しみは、心に深くしみわたったことにはなりません。悲嘆で膨らんだ心は、涙腺つまり悲しみの通路をすべてふさいでしまいます。

ところで、いろいろ書きましたが、貴殿から、真の悲嘆はそれと分らないものであり、形式には不案内であるということ、そしてまた、それ自体に、体面を大事にしたいという考えに影響された些細な形式よりもはるかに素晴らしい尊厳が備わっているのだということを、悲しみに関する浅薄な意見を述べている批評家や観察者のみなさんに教えてあげて欲しいのです。実は、最近、私は親友を亡くしましたが、まだ涙を流していないのです。そういう次第ですので、どうかこのテーマにつきまして貴殿のご意見を戴きたいものと考えます。

敬具

B.D.

6月15日

拝啓

私は、少なからぬ人々が、感謝の念を込めて、人々に恩恵を与える貴方のペンの効用を認めているものと思います。なんとおっしゃられようとも、貴方は善行に伴う密かで比類のない喜びに気づいておられ、ご自分が提供なさる楽しみをご自身でも大いに共有なさっておられるに違いありません。私たち女性がとても感謝していますのは確かなことです。そして、私は、貴方のお仕事、特に女性のために考えてなさっておられるご努力によって、私たち女性が向上することを望んでいます。時々口にされますように、女性が男性に影響を及ぼすのが事実であれば、貴紙はもっと多くの人々に役立っていることになります。私たちに読書をするようにとの貴方のご指導はその通りで

あり、確かに、私たちを教育する最善の方法でしょう。だが、貴方も指摘なさっておりますが、悟性の向上は、使い方によっては有益であったりそうでなかったりしますので、その点に関して慎重に扱うことが肝要だと思われます。私たちは一般に、教育は不十分であってもそれほど無知ではないと、つまり、機知や分別や知識の適切な運用を願っているのだと考えられてきました。貴方は非常に上品に、洒落者よりも女性の読者の方がすでに深い学識を備えているとおっしゃっております。³⁾また、ウィル・コーヒーハウスに出入りしている数名の紳士たちより立派な話題を提供する女性を何名か並べることができるもおっしゃっております。これはお愛想ではないと私には思われますが、おそらく、貴方はトム・コーヒーハウス⁴⁾やギリシャ・コーヒーハウスのお仲間のことも念頭に置いていらっしゃるものと思われます。きっと貴方は聡明過ぎますので、それが女性を心から賞賛することになるとは考えておられないのです。むしろ、貴方は、私たちに、私たち自身が向上し、立派な娘、立派な妻、立派な母、そして立派な友であることを立証させようとしているのです。

(私は決してその方をひいきみに見ている訳ではありませんが) 算術の勉強を勧めておられるチープサイドの賢明な商人の方のお意見に賛同せざるを得ません。⁵⁾そして、女性に学識を持たせるための助言として貴方が引合いに出しておられる大家のお考えには同意しかねます。確かに、熱情を理性に従わせるためには、時々、ほんの少々の哲学が重宝するかも知れませんが、『テオドシウス、愛の力』と引き替えにしても、その種の論文を認めるべきですが、貴方には助言は必要ないことは私にはよく分かっていますので、キャンブレイの『娘の教育』⁶⁾を推薦させて戴くにとどめます。この書は、翻訳に

3) 第92号参照。

4) 同名のコーヒーハウスは何軒かあった。ここに登場するコーヒーハウスはおそらくコヴェントガーデンのラッセルストリートにあったものだろう。オーステイン・ドブソン『18世紀の挿絵』『コヴェント・ガーデン巡り』参照。

5) 第92号参照。

よっておそらく長所がかなり削られているのですが、私に理解できる唯一の言語に翻訳されています。その教えが一般的に有益であるだけでなく高貴な婦人にも適しているということには異論があると聞いていますが、実を言いますと、私はその意見には反対です。なぜなら、女性を犠牲にするようなルールは述べられていないからです。淑女と資産家あるいは高貴な婦人とは当然区別すべきですが、公正、感謝の念、誠意、思慮分別、あるいは慎ましきといった原則では違いはないと考えます。以上長々と書きましたことに對しましてお詫びを申し上げるべきでしょうが、形式よりも誠意を重んじられる貴方にはご理解戴けるものと確信します。

敬具

アナベラ⁷⁾

6) フェヌロンの『娘の教育』(1687)は、ボヴィリエ公爵夫人の8人の娘のために書かれたので、ある意味では、上流婦人にしか相応しかなかった。この書は、1707年、ジョージ・ヒックス博士が英語に翻訳し、改定版を出版した。

7) アナベラについては第53号参照